



東京大学医科学研究所 未来医療開発プロジェクト

所長からのメッセージ

■ウィズコロナ・ポストコロナ時代の医療へ向けて

東京大学医科学研究所では、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)および新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する治療薬開発、ワクチンなどの予防薬開発のほか、AIを用いた基礎研究やがん医療、再生医療などによる難病・加齢性疾患の克服など、ウィズコロナ、ポストコロナ時代に向けた未来医療開発研究に取り組んでいます。

皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■東京大学医科学研究所とは

当研究所の前身は私立伝染病研究所であり、感染症に対する治療法・予防法開発のために創設された日本最初の研究所です。現在は世界の感染症研究拠点の一つとして活動するとともに、先進的な基幹研究3部門(基礎医科学部門、癌・細胞増殖部門、感染・免疫部門)と、国立大学附属研究所では唯一の附属病院を持ち、基礎研究から臨床応用までシームレスに行える体制を整えています。



東京大学医科学研究所
所長 山梨 裕司

活動内容と主要な研究テーマ

感染症やがん、免疫・神経・筋疾患などの難治性疾患の制圧を目指し、以下の研究を推進しています。

- ①新型コロナウイルス感染症を含む新興・再興感染症に対する治療薬・予防薬(ワクチン)の開発研究
- ②がんや難病、アレルギー・免疫、加齢性疾患などの原因解明と先端的な医療開発を目指すプロジェクト型研究
- ③ゲノム(遺伝子)編集やiPS細胞などの再生医療技術、遺伝子治療など新たな技術を用いた治療法の開発研究
- ④ビッグデータや人工知能(AI)を用いた先進的な治療法・医療技術を実装するための開発研究
- ⑤新たな治療・予防法開発の基盤となる基礎的知見・技術を得るための研究

ご寄附の謝意・特典

◆寄附金は寄附金控除の対象となります。

- ・ご寄附いただいた年の12月頃に寄附金の領収書を郵送いたします。
- ・寄附金控除を受けるためには確定申告の際に寄附金の領収書を添付してください。

◆活動内容を報告します。

- ・東京大学基金のウェブサイトとメールマガジンで活動報告をお知らせします。
- ・毎年7月頃に東京大学基金年次報告書を郵送いたします。

◆ご寄附への感謝

- ・医科学研究所1号館(ロビー)にネームプレートを掲示いたします(10万円以上)
- ・医科学研究所広報誌「PLATINUM STREET TIMES」を年2回(5年間)お送りします(10万円以上)
- ・東京大学安田講堂に銘板を掲示いたします(30万円以上)

団体連絡先

東京大学基金事務局

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
TEL:03-5841-1217 FAX:03-5841-1219
Mail:kikin.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp URL:https://utf.u-tokyo.ac.jp/

ご支援でできること

未来医療開発プロジェクトがめざす未来

◆感染症・がん・難病・加齢性疾患で苦しむ人々が減少

感染症やがん、生活習慣病などに対するワクチンの開発、AI やゲノムビッグデータを用いたがん個別化治療・予防法の開発と実装、再生医療技術を用いた医薬品・人工臓器の開発、遺伝子や細胞を用いた予防・治療法の開発などを通じて、感染症・がん・難病・加齢性疾患で苦しむ人々を減少させ、健康長寿社会の実現を目指します。

◆世界の人々に安全・安心な生活を

予防・治療法の開発・提供により、世界の人々の健康、安全・安心な生活の増進に貢献することを目指します。

2025年までの目標

◆必要な方により早く先端医療を届けます

皆様からのご寄附の活用により、医科学研究所における未来医療開発研究のスピードを加速させるとともに、附属病院で実施する臨床研究・臨床試験を増やし、より早く必要とする患者さんに先端医療を提供します。

◆日本の医療開発研究・医療産業創生への貢献

開発研究に関する様々な知識・能力・経験を有する若手人材を育成し、社会に還元することで、日本の医療開発研究ならびに新たな医療産業創生を育みます。

具体的な研究活動

基礎研究から得られた新規情報や先端技術をいち早く活用し、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)などの感染症、がんや難病・加齢性疾患などに対する治療や予防法、個別化医療などの開発・実現に取り組みます。

◆寄附金の使途(抜粋)

- ①新型コロナウイルス感染症などのウイルス感染症に対する治療薬やワクチン開発研究の支援
- ②がんや難病、アレルギー・免疫、加齢性疾患などの制圧を目指すプロジェクト型研究の支援
- ③iPS細胞などの再生医療技術、遺伝子・ウイルスなどを用いた治療薬や人工臓器開発研究の支援
- ④ビッグデータや人工知能(AI)を用いた先進的な医療開発研究の支援
- ⑤新たな治療・予防法開発の基盤となる基礎研究・技術開発研究の支援

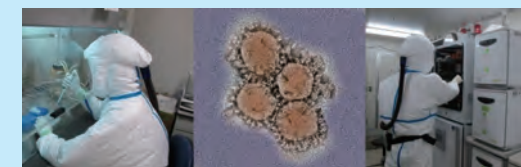
◆未来医療開発プロジェクト主要メンバー(敬称略)

山梨 裕司(神経筋疾患などの難病)
中西 真(がんや老化、生活習慣病)
岩間 厚志(血液がん・再生医療)
古川 洋一(がん、遺伝性疾患、ゲノム医療)
河岡 義裕(新興・再興感染症、ウイルス性疾患)
四柳 宏(感染症、慢性肝疾患)
石井 健(感染症、ワクチン開発)
谷口 英樹(再生医療)
武藤 香織(倫理・公共政策) など多分野の研究者

ウィズコロナ・ポストコロナ時代の安全安心な社会をめざす
未来医療開発プロジェクトへのご支援をお願いいたします

研究成果例 -1-

新型コロナウイルス感染時に獲得されたウイルスに対する抗体は、少なくとも発症後3~6か月間は維持された。(ウイルス感染分野 河岡 義裕教授ら)



研究成果例 -2-

細胞の老化に、グルタミン代謝酵素(GLS1)が関与することを発見し、GLS1阻害薬が肥満性糖尿病、動脈硬化症などの加齢現象を改善することを、動物実験で証明した。(癌防御シグナル分野 中西 真教授ら)



2019年5月撮影